

北イタリア治安情勢通報

～ 「パンク盗」による邦人被害が発生！ 泥棒が徐々に日常の中に ～

政府による新型コロナウイルス感染拡大防止策の移動制限措置の解除から約4か月間、一時滞在者も含めて、当館では邦人の犯罪被害を認知してきませんでした。が、9月29日夜、「パンク盗」（パンクを口実に注意をそらされ、その隙に車内から金品等を盗まれる）による邦人被害が発生しました。被害者の方は、これまで他国での駐在経験もあり、本件手口も把握していたのですが、犯人グループの犯行は執拗かつ巧妙だった模様です。

また、9月中旬より全席着座が可能となった地下鉄等車内では、乗車率が高まるのに伴いソーシャルディスタンスの確保が困難となるにつれ、スリ被害も懸念されます。

人々がコロナ禍の生活に徐々に慣れつつあるなかで、その日常に溶け込むように泥棒も近づきつつあります。今一度その手口を確認し、防犯対策を確実に講じましょう。

1 「パンク盗」被害の概要

- (1) 9月29日（火）午後8時頃、被害者はセグラーテで買い物した後、車で帰宅途中であったミラノ中央駅付近で信号待ちをしていたところ、後方から追隨してきたスクーター乗車の犯人にナイフ様の物でタイヤをパンクさせられた上、「（被害者が原因で）ケガをした」と言いがかりをつけてきた。
- (2) 停車後パンクを確認する最中も犯人は興奮した様子で周囲にまとわりついてきた。
- (3) その様子に身の危険を覚え、その場から低速で自宅方向に走行中、スクーターに乗車した当該犯人が車両前方に回り込んで注意を逸らせている隙に、他の仲間が助手席ドアを開け、座席上の貴重品を盗んだ模様。なお、被害者が盗難被害に気付いた頃には、犯人の追隨もなくなっていた。

2 犯人の人着等

一見して中東系、身長175cmくらい、肌黒く、口ひげあり、革ジャン・ジーパン姿
125cc 規模のシルバー色スクーター

3 「パンク盗」防犯対策

□ 信号待ちでのバイクによる軽微な追突事故は「パンク盗」も視野に

「パンク盗」の主な手口は、虚偽のパンク的事实を告げたり、駐車中にあらかじめパンクさせるものですが、本件のように追突事故を装って犯行に及ぶ巧妙な手口も発生しました。

また、犯人はターゲットを駐車場で物色していた可能性があります。乗車時は周囲に不審者がいないか確認し、走行時は不審車両が追随していないか確認しましょう。

□ ドアロックは確実に

車種によっては一定の速度が出た時点でオートドアロックされる「車速連動ドアロック」が搭載されていますが、現行車の全部ではありません。運転車両にそのような装備が搭載されているか、また正常に作動しているか確認し、そのような装備がない場合には発車時にドアロックを確実にしてください。

□ 荷物は車外から見えない座席下に

貴重品は助手席等の外部から見えやすいところに置くことなく、座席下等に置きましょう。また、パンク的事实を告げられても慌てることなく、貴重品は必ず身に着けてから降車しましょう。

4 「スリ」防犯対策

9月に入り、昨年7月の本資料で紹介したスリグループがミラノ中央駅構内で目撃されたとの情報が寄せられました。以下の当館HPより、特徴、手口等をご確認ください。

<https://www.milano.it.emb-japan.go.jp/files/000494639.pdf>

本通報に関する問い合わせ先

総領事館代表電話：02-6241141 info@ml.mofa.go.jp